

今月の本

もしぼくが本だったら

ぶん：ジョゼ・ジョルジュ・レトリア
え：アンドレ・レトリア
やく：宇野和美
アノニマ・スタジオ
(中央出版株式会社)

詩人である父親の文章に、イラストレーターの息子が絵をつけた、親子による作品。「もしぼくが本だったら…」で始まる28の言葉が並ぶ、大人向けの絵本です。ユーモアとアイロニーにあふれており、本のもつ力に気づかされます。ポルトガルで出版されてから、現在までに13か国で翻訳されています。



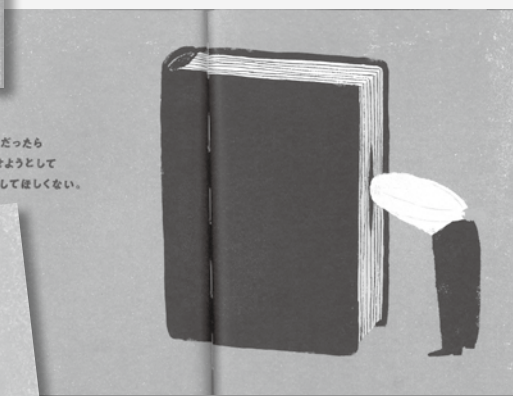
もし ぼくが本だったら
なによりも まず
いつでも読まれ、自由でありたい。

もし ぼくが本だったら
なによりも まず
いつでも読まれ、自由でありたい。

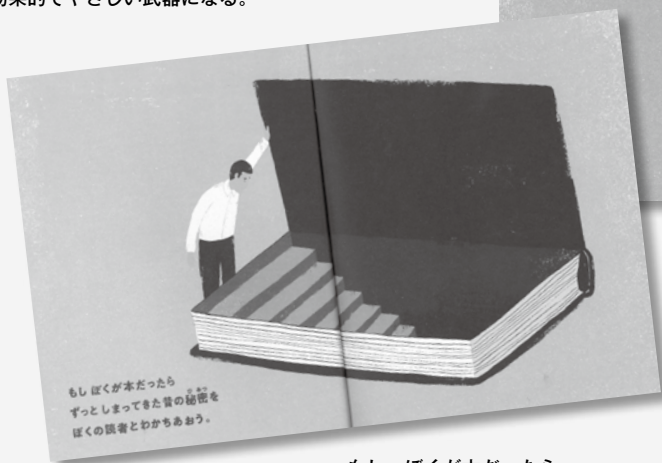


もし ぼくが本だったら
戦争したがる心をいっぺんでうちくたく
効果的でやさしい武器になる。

もし ぼくが本だったら
かっこよく見せようとして
読んだふりをしてほしくない。



もし ぼくが本だったら
かっこよく見せようとして
読んだふりをしてほしくない。



もし ぼくが本だったら
ずっとしまってきた昔の秘密を
ぼくの読者とわかちあおう。